



## 6. 啓発・参加・協力

グループ会社および社員全員が環境問題に正しい認識を持つことは、会社の環境への取り組みの大きな要素であり、環境教育やグループ会社との連携を強化していきます。また、社外や国際的な協力、広報活動を通じて、地球市民の一員として環境問題の重要性を積極的にアピールしていきます。

### i 環境教育

社員が環境問題に正しい認識を持つことは、会社の環境への取り組みの大きな要素です。当社では、95年より、新入社員全員に対してのエコロジー教育を行なっています。そのほか、各支社で環境改善の推進役となる担当者の研修等を実施しています。さらに、97年からは、新任現場長全員を対象とした研修にもエコロジー教育を行っています。また、社内広報誌「JRひがし」にて随時、環境問題や当社の取り組みを伝えたり、ビデオJRひがし「JR東日本の環境問題への取り組み」を作成し、全ての職場に提供しています。これからも、様々な機会を通じて、環境教育に努めていきます。

### ii JR東日本グループとしての取り組み

94年11月にJR東日本グループ及び関連会社105社の環境問題担当役員が参加する「環境問題に関するグループ会社連絡会議」を開催しました。96年からは、具体的な実行に向けての情報交換を定期的に行っています。また、97年からグループ企業との共同キャンペーンを実施しています。今後も、グループ各社による総合的なエコロジーの取り組みを進めます。

車内販売などの弁当を製造販売している日本レストランエンタープライズは98年2月にエコロジー推進委員会を発足させ、工場のゼロエミッション化や駅・列車ごみとなる包装の簡略化や材質、形状の見直しなどに取組んでいます。また、ルミネも、環境への組織的な取組みを開始いたしました。

さらに、駅などの清掃や廃棄物処理を行っている弘済整備は99年12月のISO14001の取得へ向けての取組みをスタートさせています。

### iii 国際的な取組み・社外との協力

鉄道の国際機関である国際鉄道連合（UIC、本部パリ）の開催する環境コーディネーター会議に参加し、世界各国の鉄道と環境問題についての情報交換に積極的に取り組んでいます。地球温暖化防止京都会議ではUICと協力し、「鉄道と地球環境」についてパンフレットを作成し、各国代表、参加者等に配布しました。また、93年

より、ドイツ鉄道と環境をテーマとした技術交流を定期的に進めています。

また、環境NGOのWWF Japan（世界自然保護基金日本委員会）は、当社の2019系によるエネルギーの削減を環境問題に対する取組みの好例として、世界に向け情報発信しています。

今後も環境関係行政機関、他企業の環境担当者、環境関係のNGOとも協力して、様々な活動を行っていきます。

#### iv 広報活動

これまでの環境への取組みが評価され、地球環境に貢献する企業・団体に贈られる、「第6回地球環境大賞」（日本工業新聞社主催、世界自然保護基金日本委員会[WWF Japan] 特別協力、通商産業省、環境庁、科学技術庁、フジサンケイグループ後援、経済団体連合会協力）を受賞した他、環境報告書の97年4月版は、すぐれた環境報告書等を表彰する「第1回環境アクションプラン大賞」（社団法人全国環境保全推進連合会主催、環境庁後援）において「環境庁長官賞」を受賞しました。また、97年11月にはすぐれた環境広告を表彰する環境広告コンクール（日本エコライフセンター、日本経済新聞社主催）において「第7回環境広告大賞及び環境庁長官賞（ポスター部門）」を受賞しています。

今後も、JR東日本の環境問題に対する取組みを正しく理解して頂くため、また、社会全体の環境意識の向上のため、さまざまな広報活動を展開していきます。